

標 題 : Food consumption patterns in the 1960s in seven countries  
7 カ国研究における 1960 年代の食品摂取パターン

---

著 者 : D. Kromhoul, et al. (米国 ミネソタ大学 他、各国共同研究)

---

掲 載 誌 : Am. J. Clin. Nutr. 49: 889-894 (1995)

---

要 旨 : 1950 年代の終りに、食事と冠状動脈性心疾患との間の関連を研究するために 7 カ国研究が計画された。

フィンランド、ギリシャ、イタリア、日本、オランダ、米国およびユーゴスラビアで、16 のコホートが選ばれた。

1960 年代中に、コホートのランダムサンプルから記録法を使用して、食事摂取データを集めた。

フィンランドで、牛乳、ジャガイモ、食用油脂、および砂糖製品の摂取が非常に高かった。オランダでは似ているが低い摂取パターンが観察された。

米国で、果物、肉および洋菓子(pastry)の摂取が高く；イタリアでは穀物およびアルコール飲料の摂取が高く；そしてベルグラーを除くユーゴスラビアでパンの摂取が高かった。

ギリシャで、オリーブ油および果物の摂取が高く、そして日本のコホートは、魚、米、大豆製品の高い摂取が特徴であった。

食品摂取におけるこれらの違いは、過去 25 年間に少なくなってきた。

---